

【調査の概要】

調査遺跡名：史跡長州藩下関前田台場跡

(しせきちょうしゅうはんしものせきまえだだいばあと)

遺跡の種類：砲台跡

遺跡の時代：幕末

所在地：下関市前田一丁目

調査の種類：史跡内調査

現地調査期間：令和8年7月1日～ 同年10月下旬（予定）

調査面積：約17㎡

調査の概要：

史跡長州藩下関前田台場跡は、下関市前田一丁目地内に所在する幕末の攘夷戦争において、長州藩が下関海峡沿いに築造した砲台の一つで、文久3年（1863年）の攘夷決行に備えて築造された「低台場」と、元治元年（1864年）の英国を中心とする四国連合艦隊の下関砲撃前に増築された「高台場」からなる。元治元年の四国連合艦隊来襲時に、従軍写真家ベアトによって撮影された占拠された前田砲台跡の写真は、当時の新聞の挿絵として大きく報道され、世界的にも広く知られている。また、英国軍が占領時に作成した前田台場の測量図が現存し、平成6年度の下関市教育委員会による発掘調査や平成10年度～平成14年度にかけての山口県教育委員会による発掘調査では、低台場跡では大砲設置面の一部とバックヤード、高台場跡では土塁や大砲設置面など、測量図や写真と符合する台場の遺構が比較的良好に残存することが確認された。また砲台が焼き払われた痕跡と考えられる焼土や球形弾や椎の実弾等の銃弾、地中にめり込んだ状態で出土した砲弾など、攘夷戦の具体的な様相を示す成果も得られている。

平成22年8月5日に、遺跡の重要性から「史跡長州藩下関前田台場跡」として国史跡に指定された。また、日本遺産「関門”ノスタルジック”海峡～時の停車場、近代化の記憶～」の構成文化財の一つでもある。

現在、高台場で実施している発掘調査では、前田台場跡の土塁跡および下関戦争で攻撃を受けた痕跡が良好に残存する状況が確認されている。

